

## 第1回定例会 一般質問

## 6名の議員が市政を問う



阿久津 佳子 議員

## デジタル化の対応について

**問** ①市民生活向上、行政運営の効率化や教育推進には、産官学民金連携のもとICTコンソーシアム<sup>(※)</sup>の立ち上げがデジタル化推進の近道と考えるがいかがか。②超高齢社会やウィズコロナ時代において、オンラインによる生涯学習(学び直し)や市民の多様なニーズを満足させる学習機会が必要と考えるがいかがか。③デジタル社会における

※ICTコンソーシアム…情報通信技術事業共同体 ※母語…最初に身につけた言語、最も得意な言語、第一言語

子どもたちの非認知能力・生きる力向上には、母語<sup>(※)</sup>で論理的な言葉遣いができること、デジタル機器と共生、人間の生き方や考え方の変革に対応しつつ自己肯定感・自己有用感・自己効力感・思考体力を養うことが求められる。教育現場ではどのように教授していくのか。

**答(教育長)** ③学校教育の現場でもデジタル化は加速しており、社会変化に対応するため、目標や意欲を持ち、粘り強く学ぶことを重視した教育課程の編成が必要である。また、自然体験や地域行事への積極的な参加を促していきたい。

**答(企画政策部長)** ①市独自のIT戦略プランを策定し、コン

ソーシアムの手法も含め、民間企業との連携や推進体制の在り方について検討し、デジタル化を進めていく。

**答(教育部長)** ②高齢者が学びやすい学習機会を提供するため、関係機関と連携を密にしていく。各種講座はオンラインや動画で配信しており、今後も市民の多様なニーズに対応した学習機会を提供していく。



一番身近なデジタル機器(例)



生沼 繁 議員

## 防災意識の向上について

**問** ①マイ・タイムラインは自らの命を守る防災行動計画であるが、一層の普及や啓発の底上げの方策を問う。②現在活動されている女性消防団員数を増やし、女性特有のソフト面を生かした活動が、減災につながり災害に強いまちづくりになるが、その考えを問う。③災害図上訓練DIGや避難所運営訓練HUGを市の小中学校や市の防災訓

練の中に取り入れることで、防災意識が向上し、災害時の協力やスムーズな避難所運営ができるがその考えを問う。④防災士資格の補助金制度を手厚くし、防災活動に意欲を持った人が資格を取得しやすい環境をつくる考えについて問う。

**答(市長)** ①説明会、出前講座等により普及啓発に努める。6月に予定している地域防災訓練では、マイ・タイムラインを含め実践的な訓練を計画している。②女性消防団員は、2名の新入団予定があり10名になる見込みである。多様な活動参加について消防団本部と協議していきたい。

**答(教育部長)** ③災害図上訓練

等は、防災意識を高める上で効果的であり、学校の避難訓練と併せて実施できるか検討したい。

**答(総務部長)** ③災害図上訓練(DIG)、避難所運営訓練(HUG)を地域に広げ、行政自治会および自主防災組織において、啓発が行われることを期待している。④市の補助金制度は、取得費用の2分の1(上限3万円)を補助しているが、今後変更について検討していきたい。



女性消防団によるAED訓練